FUJIFILM
I&I–Imaging & Information

FUJIFILM NEWS

株主のみなさまへ

JUNE 2004 *vol.66*

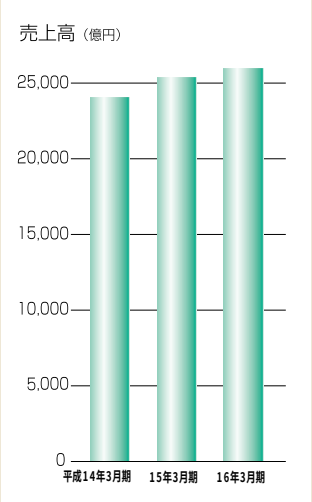
財務ハイライト

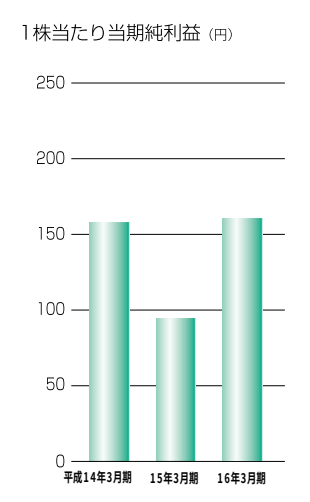
単位：百万円（1株当たり当期純利益は除く）

	連結		単独	
	平成16年3月期	平成15年3月期	平成16年3月期	平成15年3月期
売上高	2,560,387	2,505,703	771,234	795,409
税引前利益	164,948	120,513	79,848	93,480
当期純利益	82,317	48,579	54,219	44,472
1株当たり当期純利益(円)	160.38	94.51	105.40	86.29
資産合計(期末)	3,023,509	2,958,317	1,740,065	1,666,327
資本合計(期末)	1,749,882	1,680,611	1,513,980	1,456,615

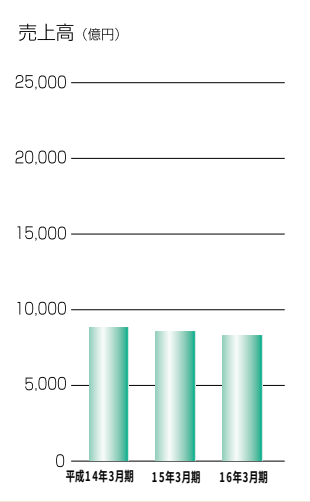
注） 1. 単独業績の表示は、税引前利益が経常利益となります。
2. 平成15年3月期は、厚生年金基金解散損231億円を営業費用として計上しております。

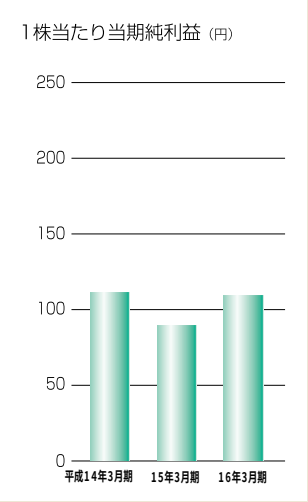
■ 連結





■ 単独





表紙写真／富田文雄氏撮影（北海道 北竜町）

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、平成16年3月期（平成15年4月1日より平成16年3月31日に至る）における我が国経済は、輸出主導により景気に明るさが見えてきたものの、個人消費や雇用環境に顕著な好転の兆しが見られなかったことに加え、期後半には米ドルに対する円高の進行等もあり、景気の本格的回復までには至りませんでした。海外におきましては、米国経済は、期後半より個人消費の伸長とともに、企業の設備投資も増加傾向を見せる等、比較的堅調に推移しましたが、欧州経済の景気回復の遅れや、期前半の一部アジア諸国における新型肺炎（SARS）の影響による景気の減速等、地域によりバラツキが顕著に見られました。

このような状況下、当社は、イメージング、インフォメーション、ドキュメントの各分野において、デジタル商品及びサービスの提供等、積極的に事業展開を図り、事業領域の強化・拡大に努めました。この結果、当期の売上高は連結で2兆5,603億円、単独では7,712億円となりました。利益につきましては、連結の税引前利益は1,649億円、当期純利益は823億円、単独の経常利益は798億円、当期純利益は542億円となりました。

当期末配当金につきましては、1株当たり12円50銭（当中間配当金と合わせ25円）に決めさせていただきました。

次に連結売上高の部門別の状況をご説明させていただきます。イメージングソリューション部門につきましては、高画質カラーフィルム新製品の拡販に加え、レンズ付きフィルムでは、「写ルンです Night & Day」が花火や夜景もきれいに撮影できる画期的な製品として好評を博し、ヒット商品となりました。デジタルカメラでは、スーパーCCDハニカムIV「HR」やスーパーCCDハニカムIV「SR」といった当社独自の技術を搭載した新製品を次々に発売し、海外を中心に販売を大きく伸ばしました。また、カメラ付き携帯電話向けメガピクセルカメラモジュールの供給が本格化し、売上が着実に増加しております。フォトフィニッシング機器では、北米を中心に海外市場でデジタルミニラボ「フロンティア」シリーズの販売が好調に推移しました。さらに、国内ではデジタルミニラボを中核にしたデジカメプリントのインフラ整備と、「お店プリント」キャンペーンの強力な推進により、国内「お店プリント」の需要が前年比3倍近い大幅な伸びを示しました。

インフォメーションソリューション部門につきましては、医療診断用製品では、乳がんの早期発見を強力にサポートする「FCR PROFECT CS」を発売するなど、FCRの製品ラインアップ充実を図り、事業を拡大しました。内視鏡製品では、これまで難しかった小腸の観察・処置を容易にした「バルーン付電子小腸鏡」等の市場導入が確実に進んでおります。印刷システム関連製品では、国内外ともにCTP化が進展する中、デジタルサーマルCTPプレート「HP-S」の販売が好調に推移しました。フラットパネルディスプレイ材料では、「WVフィルム」「フジタック」を中心に急激に需要が増大するとともに、反射防止フィルム「CVフィルムCV02」等の供給開始も加わり、売上を大幅に伸ばしました。記録メディア製品では、IBM社に対し、当社独自のナノキュービックテクノロジーを初めて採用したエンタープライズシステム（大企業向け基幹システム）用「IBM3592データカートリッジ」の供給を開始しております。

ドキュメント ソリューション部門につきましては、複写機器事業では、「DocuCentre Color」の販売が好調に推移し、国内ではカラー複合機の国内販売台数シェアトップを維持しました。また、全国1万店以上のセブン-イレブン店舗に設置されているデジタルカラー複合機のネットワークプリント機能を利用した「ネットプリントサービスbasic（ベーシック）」を開始しました。一方、中国においては、主に現地で開発された普及型モノクロデジタル機を中心に販売を大きく伸ばしております。情報機器分野では、高速・高画質で省エネルギー設計のカラープリンター「DocuPrint C2425 / C2426」を発売し、高速カラー機のラインアップを強化したことにより、自社ブランド品の売上が拡大しました。なお、業績が好調に推移した結果、セグメント間取引消去前の富士ゼロックスの売上高は、初めて1兆円を突破しました。

本年1月に創立70周年を迎えた当社は、経営環境のめまぐるしい変化に的確に対応し新たな成長軌道に乗せるべく、「新たなる出発」をテーマとして、中期経営計画「VISION75」を策定しました。この「VISION75」の実現に向けて、先進技術を駆使した新製品や新システムを積極的に投入していくとともに、研究開発・生産・販売・サービスの強力なネットワークの構築や経営全般にわたる徹底した構造改革等を富士フイルムグループ一体となって推進し、強固な経営基盤の確立と競争力の強化・成長を目指してまいります。

なお、当社はこの度、株式投資単位を引き下げ、平成16年9月1日をもって1単元の株式数を1,000株から100株に変更することを決定いたしました。これにより、個人を中心としたより多くの方々に投資機会をご提供できるものと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年6月

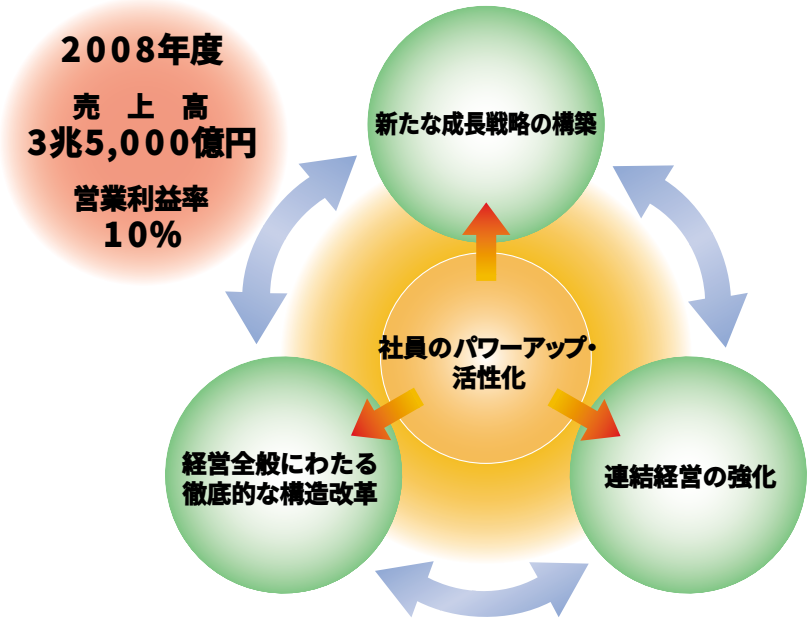
代表取締役社長・CEO 古森重隆

中期経営計画
VISION75
～新たなる出発～
を発表!

富士フイルムは本年１月、創立７０周年を迎えました。グローバルな環境変化の中で、当社はデジタル化に対応した最先端技術を創出するとともに、富士ゼロックスの連結子会社化など連結経営の強化を進めてまいりました。そして、５年後の創立７５周年に向けて、徹底した構造改革と新たな成長戦略の構築を目指す中期経営計画「VISION７５～新たなる出発～」を策定し、２００４年２月に発表いたしました。この「VISION７５」を経営の軸として、目標達成に向けた具体的な取り組みがスタートしました。

中期経営計画を発表する古森社長

VISION75の基本戦略と目標



新たな成長戦略の構築

富士フイルムグループは、以下の観点から、新たな成長戦略の構築に向けた取り組みを強化してまいります。

●経営資源の集中により、成長事業を拡大

電子映像事業　デジタルカメラでは、キーデバイスのスーパーCCDハニカム、フジノンレンズなど、富士フイルムグループがもつ独自技術をさらに強化し、差別化商品の開発に注力します。また、研究開発・生産・販売体制の強化を通じ、グローバルシェア・トップ3を確保します。

光学電子部品では、CCD、レンズ、高密

度実装技術などを結集し、カメラ付き携帯電話向けビジネスを拡大します。さらに、今後はセキュリティ分野、車載分野など、新しい事業領域への展開、供給を拡大していく方針です。

フラットパネルディスプレイ(FPD)材料事業　液晶モニターや液晶TVの普及・拡大により、今後、需要の飛躍的な拡大が見込まれています。積極的に設備投資を推進し、あらゆるFPDに対応した部材供給体制の確立を目指します(P4-5参照)。

ドキュメントソリューション事業　ドキュメント作成業務の一括代行サービスをはじめとしたオフィスサービス事業、デジタル印刷分野におけるプロダクションサービス事業など「新規事業の育成」と、プリンター事業、複写機事業におけるカラー化の推進など「既存事業の選択と集中」という2本柱で事業成長を図っていきます。

拡大する液晶ディスプレイ市場のニーズに対応

●将来を担う新規事業創出と研究開発の強化

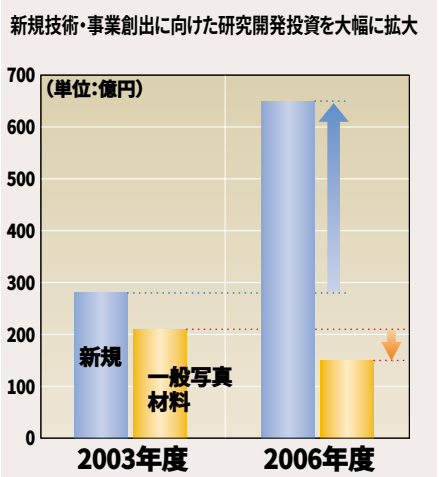
当社が保有している技術の強みは、「光の特性を自在に制御する材料技術」です。この強みを最大限に活用し、「デジタルイメージング」「高機能材料」「光デバイス／システム」の3つの方向にターゲットを定めて、新規事業を創出していきます。そのために、研究開発体制の再構築、研究開発投資の見直し(右グラフ参照)等を推進します。

●中国における事業展開の拡大

成長する中国市場で、デジタルカメラ、複写機・プリンター、印刷システム、医療画像、光学電子部品事業に注力し、デジタルイメージング分野では、トータルソリューションの展開により、「FUJIFILM」のトップブランド化を図ります。販売体制はもちろん、生産拠点の整備・拡大により、中国における事業展開を加速していきます。

経営全般にわたる徹底的な構造改革

グループ全体の効率的な最適経営をめざし、生産体制の再編、国内販売・流通体制や、購買戦略の改革など徹底的な構造改革を進め、大幅なコスト削減を実現していきます。



連結経営の強化

連結経営の強化という観点では、新経営指標EVA®の導入や、ITインフラの整備を推進するほか、内部統制体制や環境経営のさらなる強化にも注力いたします。

富士フイルムは、VISION75で掲げた目標の達成に向け、めまぐるしい環境変化にこれまで以上に柔軟かつスピードをもって対応していくとともに、経営や事業運営に関する分析・判断・決定・行動を素早く、そして的確に行う「迅速なる熟慮断行」を実践してまいります。

＊中期経営計画「VISION75」の発表資料やその他のIR関連資料は、以下の当社ホームページでご覧いただけます。
http://www.fujifilm.co.jp/

急成長する液晶ディスプレイ市場に高機能フィルムを供給する

富士フイルムオプトマテリアルズ

液晶テレビの本格普及や液晶モニターの大型化などを背景に、フラットパネルディスプレイ市場は今後も大幅な成長が見込まれており、またそれと歩調を合わせるようにフラットパネルディスプレイの製造に不可欠な各種高機能フィルムに対するニーズも高まりを見せています。今回は、中期経営計画「VISION75」でも成長事業として位置づけられているフラットパネルディスプレイ材料事業において、主要製品「フジタック」「WVフィルム」の一大生産拠点となっており、市場のリーダー的役割を果たしている「富士フイルムオプトマテリアルズ」をご紹介します。

静岡県内の大井川沿いに立地し、増設工事が進む富士フイルムオプトマテリアルズ

「フジタック」の製造

液晶ディスプレイ材料の大幅な需要拡大に対応

液晶ディスプレイは、従来のCRT(ブラウン管)に比べ薄型・軽量であるだけでなく、目に優しい、消費電力が少ないといったメリットがあり、現在では携帯電話、カーナビ、ノートパソコン、テレビなど数多くのデジタル製品に採用され、今後、さらなる市場拡大が予想されています。

液晶ディスプレイの製造には、様々な高機能フィルムが不可欠です。富士フイルムはこの分野で、写真フィルムで培った高度な技術力をベースとして「フジタック」「WVフィルム」「トランサーフィルム」「CVフィルム」等のフラットパネルディスプレイ材料を供給しており、このうち「フジタック」と「WVフィルム」は、それぞれ市場シェア80%強、100%と圧倒的な占有率を確保しています。

富士フイルムオプトマテリアルズは、この両製品の生産を担うべく2001年8月に設立されました。同社の工場は、敷地約11.3万m²で、静岡県吉田町の大井川河畔に立地しています。2003年3月から「フジタック」を生産する第一工場が稼働を開始したのに続き、2004年

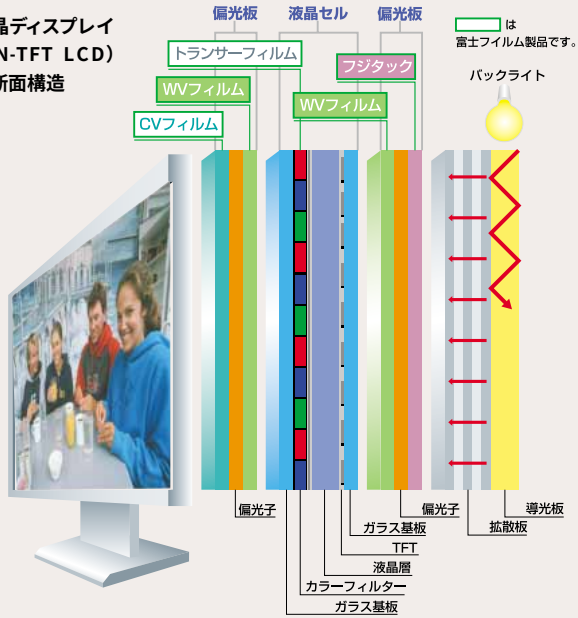
「フジタック」のサンプリングを行う工場スタッフ

2月から新たに「WVフィルム」の工場が生産を開始しました。さらに、2004年内にはフジタックの第二工場が完成予定で、今やフラットパネルディスプレイ材料の一大生産拠点として、磐石な体制を築きつつあります。

富士フイルムオプトマテリアルズは、企業コンセプトに「シンプル(省力・自動化され操作性に優れた設備)」「オープン(地域を大切に)」「ゼロエミッション(環境への配慮)」を掲げています。この考えを実践し、工場内にはコンピュータで制御された最新鋭の製造設備が導入され、遠隔操作によってほとんどの作業が自動化されているほか、環境への配慮という面では、環境配慮モデル工場となることを目指し、省エネ、リサイクル、リユースはもちろん、排水は飲料水として認められる基準値以上の水質を確保しています。

コンピュータで自動制御・省人化された管制室

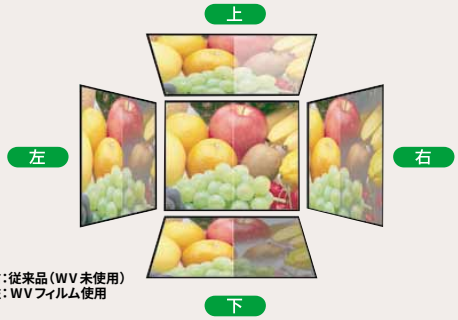
液晶ディスプレイ（TN-TFT LCD）の断面構造



■フジタック

透明性、表面の平滑性に優れ、無異物であることが最大の特長で、液晶ディスプレイ用偏光板の保護フィルムとして使用されています。当社が1950年代に写真フィルムの支持体として開発したTACフィルムがベースとなっており、早くから電卓などの液晶表示に使われる偏光板の保護フィルムとして採用されてきました。光学的に均一で、偏光機能を阻害することなく保護する高機能材料として、市場で高い評価を得ています。

WVフィルムの視野角拡大効果



右：従来品（WV未使用）
左：WVフィルム使用

■WVフィルム

WVとは「ワイドビュー（広視野角）」を意味し、富士フイルムが独自に開発した視野角拡大フィルムです。偏光板に組み込むだけで、TFT LCDパネルの視野角を大幅に広げる効果があることから、ノートパソコンやパソコンモニター用などに需要が拡大しています。

生産力増強に向け急ピッチで設備を拡大

中期的には、引き続き拡大が予想される液晶ディスプレイ市場からのニーズに応えるべく、増産に向けた体制強化を急ピッチで進めており、グループ全体で2007年までに1,100億円の設備投資を計画しています。既に富士フイルムオプトマテリアルズでは、2005年末の完成に向けて新たな工場建設を開始しております。また富士フイルムでは、2003年12月に、フラットパネルディスプレイ材料事業部及びフラットパネルディスプレイ材料研究所を設立し、より迅速に市場ニーズに対応できる生産・研究開発・販売体制を整備しました。

今後もフラットパネルディスプレイ材料のリーディングカンパニーとして、高品位な製品を市場に供給し、さらなる発展を目指してまいります。

PMA2004
イメージング市場における リーダーシップをアピール

ラスベガスのPMA会場

当社ブースは連日、大勢の来場者で熱気にあふれていました

当社古森社長がPMA開催中にInternational Imaging Industry Associationより2004 Leadership Awardを受賞

本年2月12日～15日に米国ネバダ州ラスベガスで開催されたPMA2004で、当社は「Fujifilm. Picture Your Solutions」をテーマに、多彩な製品の展示や、撮影からプリントに至るイメージングサービスのデモンストレーションを行い、あらゆるお客様にトータルソリューションを提供できる業界のリーダーであることを強くアピールしました。

多様な顧客ニーズと期待に応える

今回のテーマ「Fujifilm. Picture Your Solutions」は、富士フイルムが市場のリーダーとして、お客様に最適なソリューションを提供できること、すなわち一般ユーザー、プロカメラマン、販売店、現像所の絶えず変化する多様なニーズに応え得る体制を備えていることを表現したものです。

デジタルカメラから、カラーフィルムや写ルンです、オンライン能力を完備したラボ機器に至るまで、当社の製品とサービスがユーザーやビジネスパートナーの幅広いニーズをカバーしていることを訴求し、当社ブースは連日、大勢の来場者で賑わいました。

先進の製品・トータルソリューションを紹介

業務用では、より作業性を向上させ、赤目補正やキズ消し等の機能を搭載したデジタルミニラボの新モデル「Frontier355/375」をはじめ、超コンパクトなデジカメプリント受付機として、無線でデータのやり取りを行えるBluetooth™と赤外線通信機能を備え、カメラ付き携帯電話からのプリントも可能な「Digital Photo Center Express（DPCE）」を紹介し、大きな注目を集めました。

デジタルカメラでは、初心者向けコンパクト

モデルを使い、デジタルカメラでの撮影からデジカメプリントまでをデモンストレーション

「Get the Picture Online」サービスのWeb画面を紹介

日本で大ヒットとなった「QuickSnap Smart Flash」（日本での製品名：写ルンですNight & Day）も来場者の注目の的

多くのプロ写真家、アマチュアカメラマンから高い評価を得ているフジクローム製品の大サイズプリントを掲出

モデル「FinePix A330/A340」やプロ用「ネオ一眼レフ」タイプの「FinePix S20Pro」、よりリアルな画像を生み出すプロ待望の「FinePix S3Pro」を発表しました。このほか、35mmカメラの新製品やデジタルプリント注文をWeb上で受け付ける「Get the Picture Online」サービスなど、先端技術を結集した多彩なイメージングソリューションをご覧いただき、当社の提供する製品、サービスに対し、賞賛の声が寄せられました。

フィギュアスケート世界選手権に協賛

富士フイルムは、3月22日から28日の7日間、ドイツのドルトムントで開催された「世界フィギュアスケート選手権大会2004」に協賛しました。大会では、女子シングルで日本の荒川静香選手が優勝、安藤美姫選手も4位に入賞するなど、日本選手の大活躍で大いに盛り上がりました。

当社はリンク周りにコーポレートボードを掲げ、FUJIFILMブランドをアピールしました。また、場内入口付近に当社ブースを設置し、1999年の世界選手権で優勝したロシアの名選手マリア ブッテルスカヤさんの等身大写真スタンドの前で記念撮影が出来るコーナーを設け、連日、大盛況でした。

当社は、これに先立って開催された2つのフィギュアスケート国際大会*にも協賛し、銀盤に繰り広げられる熱く華麗な戦いを通じ、当社のブランドイメージを訴求しました。

ロシアの名選手ブッテルスカヤさんの等身大写真スタンドの前で記念撮影

＊富士フイルムが協賛したフィギュアスケート国際大会

- **4大陸フィギュアスケート選手権大会：**
  カナダのハミルトンにて1月19日～25日に開催
- **ヨーロッパフィギュアスケート選手権大会:**
  ハンガリーのブダペストにて2月2日～8日に開催

銀盤の熱く華麗な競技を応援しています

富士フイルム創立70周年記念広告

たいせつな時間は、写真の中で生きている。

新聞、テレビCMで、富士フイルムの創立70周年記念広告をご覧になったでしょうか。当社は、1934年の設立以来、70年にわたり、写真文化の創造に努めてきました。70周年を迎えるにあたり、改めて写真がもつ力、そのかけがえのない価値を、企業メッセージとして広く世の中に発信したいと考えました。

写真の楽しさは、撮るだけでなく、見る、飾る、そして思い出として残すことにあります。デジタルカメラの普及で、写真を「撮る」機会は飛躍的に増えましたが、それをプリントにして「見る楽しみ」「飾る楽しみ」「大切に残すこと」を忘れがちになっていないでしょうか。

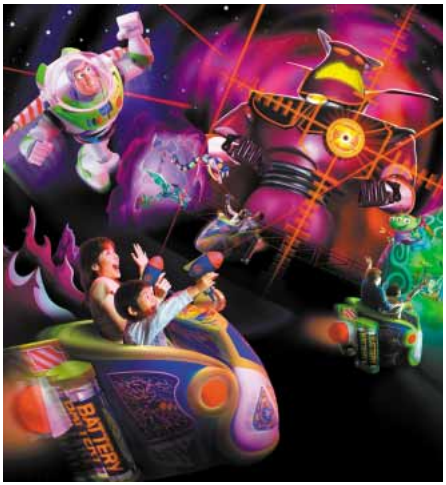
写真は、撮った本人だけでなく、家族や友人、大勢の人たちを楽しませる力をもっています。また、プリントした時だけでなく、5年後、10年後、50年後、あるいは世紀を経て見る人を感動させ、心をあたためてくれます。そんな、写真を見る楽しみ、残す大切さを「たいせつな時間は、写真の中で生きている。」というメッセージに込め発信しています。

2004年1月20日、創立70周年を記念し、70枚の写真を掲載した新聞広告

企業メッセージテレビCM「一枚の写真シリーズ」赤ちゃん編

富士フイルムが提供する大型アトラクション

「バズ・ライトイヤーのアストロブラスター」4月15日から東京ディズニーランドに登場!



世界中で人気のディズニー映画「トイ・ストーリー」に登場するバズ・ライトイヤーが活躍するアトラクションが、東京ディズニーランドの「トゥモローランド」にオープンしました。ゲストはスペースクルーザーに乗り込み、バズ・ライトイヤーと宇宙へ冒険の旅に出発。ゲスト自身がアストロブラスター(光線銃)を使い、次々と現れるロボットなどの標的を狙い撃つシューティングタイプの楽しい参加型アトラクションで、早くもファミリーや若者層に大人気です。

当社は、今後も東京ディズニーランド、東京ディズニーシーのスポンサーを継続するとともに、楽しい思い出、喜びや感動の瞬間を写真で残す素晴らしさをお伝えしていきます。

めざせ、宇宙のヒーロー!

BUZZ LIGHTYEAR'S ASTRO BLASTERS

バズ・ライトイヤーのアストロブラスター

Tokyo Disneyland®

©Disney/Pixar

「バズ・ライトイヤー」のアストロブラスターは、ディズニー/ピクサー映画「トイ・ストーリー」シリーズがテーマになっています。

新イメージキャラクターはTOKIOの長瀬智也さん!

フジカラーデジカメプリント『もっとライジング大作戦2004』を展開

当社は、全国の写真店を中心にサービスを展開している「フジカラーデジカメプリント」の普及・拡大を強力に推進するため、2002年より「ライジング大作戦」を開始し、大幅に実績を伸ばしています。*

2004年はさらに飛躍的な拡大をめざして、『もっとライジング大作戦2004』を展開しています。ますます広がるデジタルカメラユーザーに、デジカメプリントをいっそう便利にご利用いただけるよう、デジタルミニラボフロンティアの導入を進めるとともに、店頭用セルフ受付機、ネットプリント受付環境の充実等インフラの整備を推進してまいります。

また、デジカメプリントの新イメージキャラクターとして、人気アイドルグループ"TOKIO"のボーカルで、女性層を中心に絶大な人気を誇る長瀬智也さんを起用。『カンタン・キレイ・色あせない』をキャッチフレーズにテレビCMや店頭POPでデジカメプリントを強力にアピールします。

デジカメプリントの新イメージキャラクター長瀬智也さん(店長役)、期待の新人女優・堀北真希さん(店員役)、お客様はおなじみの樹木希林さん(綾小路さゆり)です。

*平成15年のデジカメプリント枚数、前年比約3倍を達成(国内フロンティア導入店における)

新製品

スキャン文書の配信など豊富なネットワーク機能に加え、
業界最速*のファーストコピータイムを実現したカラー複合機

富士ゼロックス
DocuCentre Color f450

コピー、プリンター、スキャナー機能を標準装備し、ファックス(オプション)受信文書とスキャナーで読み取った文書を、サーバーやパソコンに自動配信する機能を搭載したネットワーク対応モデルです。オフィスのネットワーク環境に接続するだけで、すぐに紙ドキュメントを電子化するシステムが構築できます。ファーストコピータイムが、モノクロ4.5秒、カラー7.0秒*の高速出力、モノクロ毎分45枚、カラー毎分35枚(A4ヨコ)の高速連続プリントなど、デジタルカラー複合機として高い生産性を実現しました。また、高品質プリントで定評のあるEAトナーをさらに進化させ、高画質と高生産性を両立させたEA-HGトナーを採用しています。

＊2004年1月7日現在、モノクロ優先、カラー優先モードで原稿台からA4ヨコ置きコピー時

世界初*ワイド液晶モニター搭載
光学4倍ズームデジタルカメラ

FinePix F710

デジタルカメラで初めてデジタルハイビジョン時代に対応した「ワイド液晶モニター」(2.1型ワイド・約17.3万画素)をはじめ、豊かな写真表現を可能にする、進化したスーパーCCDハニカムIV「SR」、焦点距離32.5mm～130mm相当(35mmフィルム換算、STD時)の幅広い領域をカバーする光学4倍ズームを搭載しています。
通常の撮影に加え、16：9のワイド撮影が可能で、撮影した画像をハイビジョンテレビで大迫力のフル画面で楽しむことができます。

また、有効画素数620万画素(S画素：310万画素、R画素：310万画素)、最大記録画素数2832×2128ピクセル(603万画素)の高画質で被写体を表現力豊かに再現します。

＊2004年2月17日現在、当社調べ。デジタルカメラとして。

スーパーCCDハニカムは富士写真フイルム(株)の登録商標です。

放送用レンズで世界初!
オートフォーカスシステム搭載の

ハイビジョン用ズームレンズ

BS放送や地上デジタル放送など高画質ハイビジョン番組の増加に対応し、富士写真光機と日本放送協会(NHK)が共同で世界で初めて開発した、放送用ハイビジョンレンズ用のオートフォーカスシステム(製品名：プレシジョン・フォーカス)を搭載しています。ファインダー上の確認では難しい精緻なフォーカシングを素早くアシストし、生放送のニュース番組はもちろん、動きのある被写体を追従し、確実にとらえられるため、サッカー、陸上競技などのスポーツ中継にも威力を発揮します。その先進性が評価され、映画テレビ技術協会から「技術開発賞」を受賞しました。

(8月発売予定)

「森」がもたらしてくれる恩恵の素晴らしさ、尊さを美しい画像とともに紹介

富士フイルムの新Webサイト「Forests Forever」を公開

富士フイルムはこのほど、環境活動の新たな取り組みとして、写真のもつ優れた表現力、コミュニケーション力を生かし、環境への関心をもっていただくことを目的としたWebサイト「Forests Forever」（英語・日本語版）を公開しました。

「Forest Gallery」のトップページ

従来の企業の環境サイトから一歩進んだ試み

当社は、会社創設以来の『「環境配慮・環境保全」は企業活動の根幹をなす』との理念に基づき、様々な環境施策を推進してきました。この新しい環境サイトは、富士フイルムの願いである「かけがえのない美しい森を未来に残したい」をコンセプトとし、「森」をテーマに自然を語り、そこから未来へつながる思いを育む“場”を提供することを目指しています。

この主旨に賛同いただいた写真家、識者、各分野の専門家の方々のご協力を得て、世界の「森」の魅力を伝え、「森」の尊さに思いをはせていただける内容のサイトにしていきます。

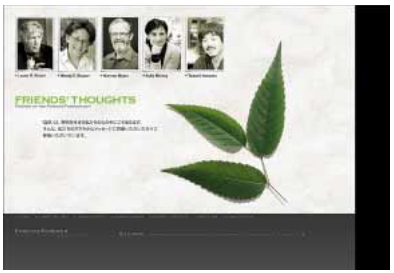
写真を通して環境の大切さを訴求

コンテンツの中心は「Forest Gallery」で、第一弾として屋久島の森を公開しました。

「Forest Gallery」では著名な写真家が撮影した美しい森の写真や、森に関連する情報を、わかりやすいビジュアルで紹介。また、森がもたらす身近な恩恵や地球規模での環境の変化を説明するなど、環境の大切さを訴えるメッセージを込めていきます。

さらに、国内外で環境に関わる様々な取り組みを行っている方々からメッセージをいただき、サイトに掲載させていただいています。当社は、今後も継続的にコンテンツを拡充し、長く世界中の人々から愛され、親しまれるサイトに育ててまいります。

ギャラリーページでは、世界各国の美しい森の姿を紹介



国内外の識者からのメッセージページ

「Forests Forever」のURL　http://www.forests-forever.com/

財務諸表

連結

■貸借対照表

単位：百万円

科目	平成16年3月期	平成15年3月期
(資産の部)		
流動資産	1,490,648	1,429,148
投資及び長期債権	396,693	400,187
有形固定資産及びその他の資産	1,136,168	1,128,982
資産合計	**3,023,509**	**2,958,317**
(負債の部)		
流動負債	752,086	712,370
固定負債	417,816	439,256
少数株主持分	103,725	126,080
(資本の部)		
資本金	40,363	40,363
資本剰余金	68,135	68,135
利益剰余金	1,722,692	1,653,221
その他	△81,308	△81,108
資本合計	**1,749,882**	**1,680,611**
負債及び資本合計	**3,023,509**	**2,958,317**

■損益計算書

単位：百万円

科目	平成16年3月期	平成15年3月期
売上高	2,560,387	2,505,703
営業利益	180,427	160,277
税引前利益	164,948	120,513
当期純利益	82,317	48,579

注）平成15年3月期は、厚生年金基金解散損231億円を営業費用として計上しております。

単独

■貸借対照表

単位：百万円（単位未満切り捨て）

科目	平成16年3月期	平成15年3月期
(資産の部)		
流動資産	619,715	571,043
固定資産	1,120,350	1,095,283
資産合計	**1,740,065**	**1,666,327**
(負債の部)		
流動負債	178,700	161,596
固定負債	47,384	48,115
負債合計	**226,085**	**209,711**
(資本の部)		
資本金	40,363	40,363
資本剰余金	58,980	58,980
利益剰余金	1,396,571	1,355,309
その他	18,066	1,963
資本合計	**1,513,980**	**1,456,615**
負債及び資本合計	**1,740,065**	**1,666,327**

■損益計算書

単位：百万円（単位未満切り捨て）

科目	平成16年3月期	平成15年3月期
売上高	771,234	795,409
営業利益	75,138	85,546
経常利益	79,848	93,480
税引前当期純利益	81,131	69,205
当期純利益	54,219	44,472
当期未処分利益	64,048	53,842

■利益処分計算書

単位：百万円（単位未満切り捨て）

科目	平成16年3月期	平成15年3月期
当期未処分利益	64,048	53,842
配当金	6,415	6,417
役員賞与金(監査役賞与金を含む)	114	111
海外投資損失積立金	△13	△12
特別割増償却積立金	1,626	75
資産買換差益積立金	2,950	△6
別途積立金	37,000	31,000
次期繰越利益	15,956	16,259

株主と株式の概況

■株式の状況

	平成16年3月期	平成15年3月期
株主数	32,965名	27,153名
発行済株式数	514,626千株	514,626千株

■所有者別分布 (株式数と比率)

	平成16年3月期	平成15年3月期
金融機関	206,502千株(40.1%)	240,706千株(46.8%)
証券会社	4,542千株(0.9%)	1,803千株(0.3%)
その他法人	20,999千株(4.1%)	19,834千株(3.9%)
個人・その他	55,177千株(10.7%)	45,004千株(8.7%)
政府・地方公共団体	6千株(0.0%)	3千株(0.0%)
外国法人等	227,400千株(44.2%)	207,276千株(40.3%)
計	514,626千株(100%)	514,626千株(100%)

■株価 (高値・安値)及び株式売買高の推移

株価及び株式売買高は、東京証券取引所におけるものです。

■ 株価
■ 株式売買高

会社概要

- 設立　昭和9年1月20日
- 資本金　40,363百万円(平成16年3月31日現在)
- 従業員数　9,603名
- 本社　神奈川県南足柄市中沼210番地
- 東京本社　東京都港区西麻布二丁目26番30号
- 大阪支社　大阪市中央区備後町三丁目5番11号

インターネットで当社に関する情報がご覧になれます。
URL http://www.fujifilm.co.jp/

株主メモ

- 決算期　3月31日
- 定時株主総会　6月下旬
- 公告掲載新聞　日本経済新聞
- 名義書換代理人　UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱所

UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂 7-10-11
電話(03)5683-5111(代表)

照会先
株式の各種お手続き用紙のご請求は、次のUFJ信託銀行の電話およびインターネットで24時間承っております。
受付フリーダイヤル 0120-24-4479(本店証券代行部)
0120-68-4479(大阪支店証券代行部)　自動応答
URL http://www.ufjtrustbank.co.jp/

- 同取次所

UFJ信託銀行株式会社　全国各支店
野村證券株式会社　全国本・支店

- 1単元の株式数の変更

本年9月1日より、当社株式の売買単位である1単元の株式数を、1,000株から100株に変更いたします。

- 単元未満株式の買取請求および買増請求について

単元未満株式(本年8月31日までは1株から999株、9月1日以降は1株から99株の株式)の買取請求(ご売却)および買増請求(ご購入)については、上記の事務取扱所・取次所でお取扱いいたしております。ただし(株)証券保管振替機構に株券を預託されている場合には、お取引の証券会社にお申し出ください。

なお、当社は決算公告に代えて、貸借対照表ならびに損益計算書を当社のホームページ《http://www.fujifilm.co.jp/》に掲載しております。

FUJIFILM
富士写真フイルム株式会社
〒106-8620 東京都港区西麻布2丁目26番30号
電話(03)3406-2111(大代表)

FUJIFILM
I&I－Imaging & Information

カンタン・キレイ・色あせない

FUJICOLOR
デジカメプリント